論　説

政党システムの制度化と政党競合の構造

荒　井　祐　介

政経研究　第五十四巻第三号（二〇一七年十二月）

1　問題の所在
2　新たに民主化した国の政党システムの特徴
3　政党システムの制度化とその測定方法
4　政党システムの競合構造とその測定方法
5　今後の展望

1　問題の所在

政党システムの変化をめぐっては、1970年代後半から西欧諸国を対象に広く議論が展開されてきたが、近年は民主化の第3の波を通じて中南米諸国や中東欧諸国で新たに形成された政党システムの変化についても研究業績が蓄積されつつある。

後者の研究においては、一方で、既存の政党システム論の概念や分析枠組み、理論、モデルを、民主化後の中南米諸国や中東欧諸国の政党システムに適用する試みが行われている。例えば、社会的亀裂と政党編成とを関連づけたリプセット（Seymour M. Lipset）とロッカン（Stein Rokkan）の分析枠組みを民主化後の中東欧諸国に適用した研究などがある（Kitschelt 1995, Sitter 2002, McAllister and White 2005, Rohrschneider and Whitefield 2009）。これらの研究は、既存の概念や理論の適用・説明能力の検定作業という一面を持つ。

他方では、民主化の第3の波によって新たに形成された政党システムと西欧諸国の政党システムとの間には本質的な相違が存在し、それ

ゆえ西欧諸国のコンテクストで構築されてきた既存の概念や理論を単純に適用して分析することはできないとの指摘もある。この立場に立つ研究者たちは、中南米諸国や中東欧諸国の政党システムの本質を理解するには、既存の政党システム論で無視されてきた概念や次元に目を向けることを主張する。そのなかでも注目すべき概念として、「政党システムの制度化」(party system institutionalization) を挙げることができる。西欧諸国を対象とした議論が安定していた政党システムからの変化という視点に立つ一方で、民主化によって新たに形成された政党システムに関する研究は、政党システムの制度化の程度に関心を向けるべきだというのである。

本稿では、この政党システムの制度化という概念に焦点を合わせる。政党システムの制度化は、新たに民主化した国の政党システムに関する研究の中で提起され発展してきた概念ではあるが、政党間の相互作用パターンの安定化（ないし不安定化）という視点から捉えるならば、西欧諸国の政党システム研究とも接合する可能性を持っており、政党システム論全体を豊饒化することにつながると思われる。

本稿の議論は以下のように展開する。まず、第2節において、新たに形成された政党システムと西欧諸国の政党システムとの相違を論じる。それぞれの政党システムについて、形成および発展の歴史的背景、政党や政治家の行動や構造、政党間の相互作用の方法などの相違を無視して同一の概念や理論、分析枠組みを単純に適用することは、研究方法としての適切さに疑問符が付かざるをえないであろう。そこで、本稿では、ポスト共産主義諸国と西欧諸国の比較考察を行ったメア (Peter Mair) の議論を概観し、それぞれの政党システムは、民主化過程、選挙民および政党、政党競合のコンテクストという3つの面で、大きな相違を見せている点を明らかにする。

第3節では、政党システムの制度化の概念について整理した上で、政党システムの制度化という事象に含まれる諸次元について、メインウォリング（Scott Mainwaring）らの議論を中心に論じる。メインウォリ

ングらは、政党システムの制度化に関する4つの次元として、「政党間競合」、「政党－有権者関係」、「政党の正統性」、「政党組織」を挙げている。さらに、これらの次元をどのように測定するのかという点についても議論する。

第4節では、メインウォリングらが挙げた政党システムの制度化の4次元のうち、政党間競合の次元に注目することで、西欧民主主義国と新たに民主化した国の双方の政党システムを同じ分析枠組みで考察する可能性が開かれる点を議論する。ここで議論の中心に取り上げるのは、メアが提起した「政党競合の構造」(structures of competition) という枠組みである。メアは、「政権交代のパターン」、「代替政権公式の革新性と不変性」、「いずれの政党が統治するのか」という3つの次元から政党競合の構造を閉鎖的構造と開放的構造とに分類している。この節では、政党競合の構造の各次元について概観した後、それぞれの次元の測定方法に関する議論についても検討を加える。

2　新たに民主化した国の政党システムの特徴

ラテンアメリカや中東欧の国々の政党システムの研究では、しばしば、これらの国の政治的状況と西欧の政治的状況の間には大きな相違が存在しており、これらの相違を踏まえた上で政党システムを論じることが必要であるとの主張がなされている。では、新たに民主化した国々と西欧諸国との間にはどのような相違が存在しているのであろうか。

ここでは、ポスト共産主義諸国と西欧諸国の相違を論じたメアの議論を概観する。メアは、民主化過程、有権者と政党、政党競合のコンテクストという3つの面から、ポスト共産主義諸国と西欧諸国の政党システムの相違を論じている (Mair 1997: 175-198)。

(1)　民主化過程の相違

ポスト共産主義諸国と西欧諸国の政治的状況の第1の相違は、民主

化過程の相違である。19 世紀から 20 世紀初頭にかけての西欧諸国の民主化は、普通選挙権の拡大と選挙政治の定着によって、すでに存在していた政治システムが次第に開放されていく過程であった。それに対して、共産主義体制の崩壊の結果としての民主化では、政治システムの完全な再構築が必要とされた。

別の表現をすれば、西欧諸国の民主化とは、すでに政治的競合の原則やルールが確立しているところに新たに選挙権を獲得した市民の参加が増大する過程であり、ポスト共産主義国の民主化は、すでに市民の政治参加が達成されているところに新たに政治的競合の原則やルールを確立するというものである。すでに大衆政治が実現している中で、政治システムを再構築し、かつ政治的競合のルールを確立しなければならないのであり、このことが政治エリートや政党の競合のあり方に相違をもたらしている。

西欧諸国の民主化は、システムの外側にいた人々が公式に編入され、それらの人々が選挙競争に動員され、さらに全国組織として設立された政党が地方レベルにまで浸透するという長期的な過程であった。その中で、大衆政党が登場し、ほとんどの部門の市民を組織的に動員することで、政党システムは凍結されるに至った。しかし、ポスト共産主義諸国の政党システムは、市民の編入や選挙動員といった段階が（前体制において）すでに達成された上で新たに形成された。

⑵　有権者および政党の相違

第 2 の相違は、有権者と政党の相違である。まず、有権者の相違であるが、ポスト共産主義諸国の有権者は、西欧諸国の有権者に比べて明らかに流動的である。ポスト共産主義諸国の有権者が流動的である理由の1つは、彼らが強力な亀裂構造に下支えされていないからである。このことはもちろん、彼らが完全に同質的であるということを意味するものではなく、社会階層や職業、民族などに基づく社会的分断も確認されており、またそれらの分断と政党との結びつきも見出すことが

できる。しかしながら、社会的流動性の高さや、これらの社会的分断に対するアイデンティティの弱さを考えると、ポスト共産主義諸国に安定的な有権者編成がもたらされるとは考えにくい。さらに言えば、亀裂構造が有権者を構造化させるには長い時間が必要であり、政党システムの形成初期というのは最も有権者が不安定な段階でもある。

次に政党の相違である。西欧諸国において亀裂構造が有権者編成の安定化をもたらすというとき、そこには集合的な政治的アイデンティティと組織的ネットワークが伴う（Mair 2006）。社会的亀裂に沿った集合的な政治的アイデンティティを有する有権者集団は、政党などの組織的ネットワークによって安定的で強固な党派的ブロックへと編成される。その意味で、西欧諸国の政党は社会の中に強固に根付いている。

それに対して、ポスト共産主義諸国の政党は、大衆を動員するための強力な党組織の構築にあまり熱心ではない。大衆政党のような政党タイプがあまり発達せずに、エリート主導型の政党タイプが維持され続けている。

ポスト共産主義諸国の政党が大衆政党化しない理由として、大規模な党員を抱えなくても政治的資源を獲得できるという点を指摘できる。多くのポスト共産主義諸国は政党への公的助成制度を導入している。それゆえ、党員からの党費や人的資源を集めることなく、政治資金やメディアへのアクセス、公的スタッフなどを獲得することが可能になり、政治エリートは、大規模な党員を抱えることが逆に党の運営や政策決定の障害になると考えるようになる（Scarrow 1994）。

⑶　政党競合のコンテクストの相違

第３の相違として、政党競合のコンテクストの相違がある。まず、政治的エリートの行動が異なっている。ポスト共産主義諸国の政治エリートは、党組織への忠誠心や関与の度合いが低い傾向がある。また、ポスト共産主義諸国の政党のほとんどは民主化の過程で設立された新しい政党であり、有権者の間で確固とした地位と正統性をまだ確立で

きていない政党も多い。そのような政党は、政治エリートの党内対立に対して組織としての断固とした制裁を加えることができない。また、既存政党のほとんどが民主化過程で設立された新政党であるということは、新しい政党が既存政党とほぼ同じ位置に立てるということであり、新党参入の障壁が低いことを意味する。それゆえ、政治エリートは、党内での対立を解決したり自身の政治的利得を獲得する方法として、離党して新党を立ち上げたり、他の政党に合流するという選択肢を選びやすくなり、政党の離合集散や新党の参入が頻繁に起きることになる。

政党競合のコンテクストのもう１つの相違として、制度的構造の変更の頻度という点がある。西欧諸国では、政党競合の制度的枠組みに関連する憲法・法律や選挙制度などが大幅に変更されることはあまりない。対照的に、ポスト共産主義諸国では、政治システムの全面的な再構築が必要であるがゆえに、制度的枠組みも政党競合の争点となる。制度的枠組みは政党競合というゲームのルールであり、いずれの制度を採用するかによって政党の命運は大きく左右される。そのため、例えば、度重なる憲法や法律の修正が行われたり、選挙制度の変更をめぐる絶え間ない争いが展開されることになる。

3　政党システムの制度化とその測定方法

前節で述べたように、新たに民主化した国々の政党政治を取り巻く環境は西欧諸国のそれとは大きく異なる特徴を示しており、西欧のコンテクストで発展してきた政党システムの分析枠組みやモデルでは、これらの国の政党システムの本質を十分に把握できないとの認識が共有されつつある。それゆえ、中南米や中東欧の政党および政党システムの研究者たちは、新たに民主化した国の政党システムの本質や重要な相違を把握するために、これまでの政党システム研究で等閑に付されてきた政党システムの制度化という次元に焦点を合わせている。

(1) 政党システムの制度化の概念

政党システムの制度化とはどのような概念なのか。ここでは、政党システムの制度化に関する議論を主導してきたメインウォリングらの議論を概観する（Mainwaring and Scully 1995, Mainwaring and Trocal 2006）。メインウォリングらの政党システムの制度化という議論は、もともと中南米諸国の政党システムに関する研究で提起されたものであるが、その後には中東欧諸国の政党システムにも適用を試みている（Mainwaring and Zocco 2007）

一般に制度化とは、ある慣例や組織が定着し、それが広く知られるようになる過程である（たとえ普遍的に受け入れらないとしても）。アクターは、この慣例や組織が予見可能な将来においても広く普及しているという見通しに基づいて、期待と志向性を持つようになり、そして実際の行動を行う。

この制度化の概念規定に従えば、制度化された政党システムとは、政治的アクターが、政党の行動・競合の基本的な形勢やルールが予見可能な将来においても広く浸透しているという見通しに基づいて、期待を抱き、行動を展開する政党システムであるといえる。制度化された政党システムは、いずれの政党が主要政党であり、それら主要政党がどのような行動を取るのかという点で安定性を示す。

(2) 政党システムの制度化の４つの次元

メインウォリングらは、政党システムの制度化には４つの次元が含まれるとしている。これら４つの次元は、政党システムが制度化するための前提条件というよりも、むしろ制度化の程度を測る指標のような性質のものである。

第１に、制度化された政党システムは、安定的で規則性のある政党間競合のパターンを示す。また、政党間競合のパターンが安定しているということは、主要政党の参入と退出がそれほど頻繁には起こらないということも意味する。

第2に、制度化された政党システムでは、政党は社会に強固に根付いており、有権者は政党への強い結びつきを有する。政党が社会に強く根付くことで、選挙における政党間競合にも規則性がもたらされる。その意味で、第1の次元と第2の次元は、分析的には区別されるが、相関関係にあるといえる。

第3に、制度化された政党システムでは、政治的アクターは、政党および政党間競合の正統性を容認している。政治的アクターたちは、たとえ特定の政党に批判的であったり、政党一般に対して懐疑的であったとしても、政党を民主主義に必要不可欠の要素であると見なしている。

第4に、制度化された政党システムにおいては、組織としての政党が確固とした地位と価値を確立している。換言すれば、野心をもった指導者が組織としての政党を意のままに牛耳るようなことはない。これは政党の制度化とも表現できる次元で、政党の組織構造が確立され、影響力の及ぶ範囲も広範で、十分な政治的資源を確保できている状態である。組織としての政党が確立されることで、不満を持つ政治エリートが離党したり、他の政党と頻繁に離合集散を繰り返したり、あるいは新党を立ち上げたりする機会は減ることになり、政党システムの制度化の程度は高くなる。

これら4つの次元を簡潔に纏めれば、①政党間競合、②政党－有権者関係、③政党の正統性、④組織としての政党という4つの次元であるといえよう。すなわち、厳密な意味で政党間関係に言及する次元というのは第1の次元だけであり、第2の次元と第4の次元は個々の政党に関する次元、第3の次元は政治エリートの政治文化に関する次元である。

⑶　政党システムの制度化の測定方法

次に、上で挙げた4つの次元における制度化の程度を測定する方法について概観する。第1の政党間競合の次元は、ペデルセンの選挙ヴォラ

ティリティを用いて測定される（Pedersen 1979, 1983）。選挙ヴォラティリティの値が低ければ、政党間の競合は安定しており、制度化の程度も高いとされる。

ヴォラティリティは、2回の連続する選挙の間での正味の有権者変化として定義され、変化現象に直接言及するものであるが、その帰結を示すものではない。その測定方法は、ある選挙（t）と前回選挙（$t-1$）の各党の得票率の変動を足し合わせ、それを2で割ることによって求められる。あるいはもっと単純に、ある選挙と前回選挙とを比べて得票率を伸ばした全政党の得票率増加分を合計することでも求められる。ヴォラティリティの計算方法は以下のように表わせる。

t回目の選挙の政党iの得票率を$P_{i,t}$とすると、政党iの前回選挙からの勢力変化は、

$$\Delta P_{i,t}=P_{i,t}-P_{i,t-1}$$

となる。このとき、2回の選挙における正味の変化の合計（total net change）は次のように表わせる。nは2回の選挙で競合する政党の数を表わす。

$$TNC_t=\sum_{i=1}^{n}\left|\Delta P_{i,t}\right|$$

$$0\leq TNC_t\leq 200$$

正味の有権者変化であるヴォラティリティは、TNC_tに1/2を乗ずることで求められる。

$$V_t=\frac{1}{2}\sum_{i=1}^{n}\left|\Delta P_{i,t}\right|$$

$$0\leq V_t\leq 100$$

第2の政党－有権者関係の次元に関しては、いくつかの測定方法が提起されている。まず、大統領選挙での得票率と下院での議席率の相

違に着目する方法がある。各政党の下院での議席率と自党の大統領候補者の得票率とを比較し、その差を測定する。大統領選挙に政党が連合して候補者を擁立する場合には、その政党連合全体の下院での議席率を比較対象とする。この相違が小さければ、有権者は候補者ではなく政党ラベルを基準にして投票していると考えられ、政党と有権者との紐帯が存在していると想定される。

似たような測定方法として、大統領選挙における外部候補者（outsider presidential candidates）の得票率を調べる方法も提起されている。これらの外部候補者が高い得票率を獲得するならば、有権者は政党ラベルではなく候補者に基づいて投票を行っていることになり、政党と有権者の結びつきが脆弱であることの傍証になる。外部候補者を操作的に規定すると、無所属の候補者、あるいは、前回の下院議院選挙で得票率が5％以下でなおかつこれまでの大統領選挙に候補者を立てていない政党の候補者とされる。

また、長期に渡って存続している政党は特定の社会的集団から長期的な支持調達に成功していると考えられることから、政党が存続してきた期間も、政党－有権者関係を測定する指標として利用できるという。

第3の政党の正統性を測定するデータとして最も良いのは、世論調査のデータである。しかしながら、新たに民主化した国においては、必ずしも信頼できる世論調査のデータが入手できるとは限らない。それゆえ、各国の政治についての専門家の判断や分析を測定の基礎材料にすることも多くなる。

第4の政党組織の次元については、党内生活に関する詳細な分析に依拠することになるが、この種の研究の蓄積はまだ少ない。政党の制度化の1つの指標として、政党の規律（discipline）と凝集性（cohesion）を挙げる研究もある（Randall and Svåsand 2002）。組織としての政党が確立され、固い規律と凝集性を備えるようになれば、不満を持つ政治的エリートが離党したり、新党を立ち上げる機会は低減することになる。

⑷　選挙ヴォラティリティの問題点

上で見たように、政党システムの制度化の程度は、4つの次元から測ることができる。ただし、実際のところ、中南米諸国や中東欧諸国の政党システムの制度化に関する研究では、第1の次元が取り上げられることが多い。換言すれば、政党システムの制度化を測る指標として、ペデルセンの選挙ヴォラティリティが取り上げられることが多い。

メインウォリングらは、選挙ヴォラティリティによって、政党間競合のパターンの安定性を測ることができるとしている。しかし、選挙ヴォラティリティという指標では、政党間競合のパターンの安定性を測ることはできないように思われる。

選挙ヴォラティリティは、連続する2回の選挙で各党が獲得したアグリゲートな票に基づいて算出される。それゆえ、選挙ヴォラティリティの値が示しているのは、投票者が2回の連続する選挙で同じ政党に票を投じる傾向（ないし異なる政党に票を投じる傾向）である。端的に言えば、選挙ヴォラティリティ自体は政党間の関係性について何も語らない。

選挙ヴォラティリティが低いときには政党間競合のパターンは安定しており、高いときには政党間競合のパターンは不安定であるというとき、そこには次のような推論が見て取れる。前者について、選挙ヴォラティリティが低いということは、有権者は政党と固く結びついていて、投票行動も固定化されているということである。政党－有権者関係が固定化されているときには、選挙結果の予測可能性も高くなり、政党間競合も安定的で規則的なものとなる。この推論は妥当性が高いように思われる。

他方で、選挙ヴォラティリティが高いということは、政党と有権者の間に固定的な結びつきが見られず、有権者の投票行動が流動的だということである。そのような選挙結果の予測可能性が低い状況では、政治エリートたちの行動は不安定になり（離党や新党設立の政治的コストが低下する）、政党間競合のパターンも流動的なものになると推論され

る。

しかし、本当にそうであろうか。選挙ヴォラティリティが高いということは、確かに、有権者の投票行動が流動的であり、政党と有権者の結びつきが脆弱なものであるということを示しているかもしれない。だが、そうであったとしても、政党間の競合関係が安定しているケースも実際には存在する。主要政党の得票には大きな変化がなく競合関係も安定している一方で、それ以外の小政党の得票の増減が大きかったり離合集散が激しいとき、当然ながら選挙ヴォラティリティの値は一定の高さに上昇することになる。

要するに、選挙ヴォラティリティの値から投票行動の流動性が示されたとしても、政党競合が安定したパターンとなっている可能性は十分に考えられるのである。

4　政党システムの競合構造とその測定方法

⑴　政党システムの制度化と政党競合の構造

メインウォリングらによる政党システムの制度化の議論を見てきたが、ここで改めて政党システムという概念との関係を考えてみよう。政党システムは、「システム」概念を踏まえるならば、「政党間競合から生まれる相互作用のシステム」（Sartori 1976: 44）と定義することができる（荒井 2017）。政党システムをそのように定義するならば、政党システムの制度化の次元のうち中心をなすのは、第１の次元であると考えることができる。

政党間競合の次元に焦点を合わせて政党システムの制度化を改めて定義すると、次のようになるであろう。すなわち、政党システムの制度化とは、政党間相互作用の特定のパターンが繰り返され、予測可能性を高め、そして安定化する過程である。別の言い方をすれば、政党システムは、諸政党が標準化され構造化された方法によって競合するときに制度化されるのである。

政党システムの制度化と政党競合の関係を考える場合、メアの提起

した「政党システムの競合の構造」を議論の出発点に位置づけることができる（Mair 1997:199-223）。メアは、政党間の競合の構造という観点から政党システムを閉鎖的（closed）な政党システムと開放的（open）な政党システムに分類しているが、開放的な政党システムとは構造強化の程度が低く、閉鎖性またはシステム性を欠いている政党システムである。それゆえ、開放的な政党システムとは制度化の程度の低い政党システムであり、閉鎖的な政党システムとは制度化の程度の高い政党システムであると理解することができる。実際に、メアは、中東欧諸国やラテンアメリカ諸国の政党システムはまさにこの開放的な政党システムであり、これらの政党システムは、強固化が進み閉鎖性を獲得することで、閉鎖的な政党システムへ移行するであろうと述べている。

メアは、政党競合の構造こそが政党システムの最も重要な側面であると考え、①政権交代のパターン、②代替政権公式の革新性と不変性、③いずれの政党が統治するのか、という３つの次元から、閉鎖的な政党システムと開放的な政党システムとを分類する。

⑵　政党競合の構造の３つの次元

第１の次元である政権交代のパターンとして、以下の３つのパターンが挙げられる。第１のパターンは、「完全な政権交代」である。完全な政権交代においては、現在政権の座にある政党のセットが、野党のセットに完全に取って代わられる。第２のパターンは、「部分的な政権交代」である。この政権交代では、現政権の中に、前政権を構成していた政党の少なくとも１つの政党が含まれている。第３のパターンは、「政権交代なし」である。このパターンは、政権交代が完全に欠如しており、同じ政党ないし政党連合が長期にわたり政権を独占的に支配し続ける。

第２の次元は、代替政権の公式である。政権を形成する政党の組み合わせが常に同一の「不変的」なパターンなのか、それとも新しい政権の組み合わせがしばしば起きるような「革新的」なパターンなのか

ということである。

例えば、イギリスでは、第2次世界大戦時の大連合以降は、2010年の保守党・自由党の連立政権を除けば、新しい政権公式が実現していない。アイルランドでも政権公式は常にありきたりの組み合わせである。それゆえ、両国の政党システムの代替政権の公式は不変的である。代替政権の公式が革新的になる（つまり新しい政権の組み合わせがしばしば起きる）可能性が最も高いのは、部分的な政権交代のパターンにおいてである。イタリアでは、キリスト教民主党の長期的な支配にもかかわらず、新しい連合がしばしば結成されている。オランダにおいても、カトリック人民党、後のキリスト教民主アピールが継続的に政権に存在したにもかかわらず、新たな政党の組み合わせが形成されてきた。政権参加の経験のない政党が政権に加わるときは、明らかに革新的な公式と見なすことができる。また、政権参加の経験のある政党が再び政権に就く場合でも、その組み合わせが新しいものである場合には、それは革新的な公式と見なされる。

第3の次元は、政権へのアクセスを獲得する政党の範囲に関連する。政権へのアクセスが広範に分散されているのか、あるいは狭い範囲に限定されているのかということである。つまり、政権への参加の可能性があらゆる政党に存在しているのか、それとも特定の政党が常に政権から排除されているのかという違いである。

統治をめぐる競合から排除される政党は、必ずしも反体制政党であるとは限らない。ここでの基準は、実際にアウトサイダーとして扱われている政党が存在するのか否か、システム内の他の政党から許容しえない政党と見なされている政党が存在するか否か、という点である。

⑶　閉鎖的構造と開放的構造

以上の3つの次元を組み合わせることにより、政党の競合構造における2つの対照的なパターンが導出される。相対的に閉鎖的な競合構造をもつ政党システムと、開放的な競合構造をもつ政党システムであ

表1　政党競合の構造

次元	政党競合の構造	
	閉鎖的	開放的
政権交代のパターン	完全な政権交代 政権交代なし	部分的な政権交代
代替政権の公式	不変的	革新的
政権へのアクセス	狭い範囲に限定	広い範囲に開放

出所　Mair（1996: 95）

る。前者には高い予測可能性が見られるが、後者の予測可能性は極めて低い。

閉鎖的構造をもつ政党システムは、例えば、イギリスやニュージーランドの政党システムである。両国の政党システムは、完全な政権交代、代替政権の公式の不変性、そして与党と政権担当能力のある野党という2政党の存在により特徴づけられる。

開放的構造をもつ政党システムは、例えば、戦後のオランダやデンマークの政党システムである。オランダの場合、カトリック人民党、後のキリスト教民主アピールが長期的に政権内に存続したことで若干の予測可能性が見られたこともあり、その意味で、少なくとも部分的には閉鎖的構造であった。デンマークの場合も、進歩党と社会主義人民党が政権から永続的に排除された結果として若干の予測可能性が見られたので、部分的に閉鎖的構造であった。

閉鎖的な競合構造の発展は、政党の戦略に大きく依存している。政権参加の経験を持つ諸政党が、革新的な政権公式の実験に反対し、政権に新しい政党が加わることを阻止する戦略を採ることにより、政党システムの閉鎖的な構造は発展することになる。

また、競合の構造が閉鎖性を獲得するには、政党間の競合・協調における規範や協定が必要になる。その意味において、競合の構造の閉鎖性は明らかに時間の関数であり、新たに形成されたばかりの政党システムを特徴づけるものと見なすことはできない。

(4) 政党競合の構造の測定方法

いま見てきたように、政党システムの競合の構造という議論は、政党システムの制度化の次元のうち政党間競合の次元に焦点を合わせた議論として位置づけることができる。では、この政党競合の構造はどのように測定することができるのであろうか。

メアの当初の議論では、政党競合の構造のいずれの次元においても、二分法的な測定方法が示唆されていた。すなわち、政権交代のパターンが「完全な政権交代または政権交代なし」と「部分的な政権交代」のどちらなのか、代替政権の公式が「不変的」と「革新的」のどちらなのか、政権へのアクセスが「狭い範囲に限定」されているのか「広い範囲に開放」されているのか、というかたちで把握されている。メアらは、その後、政党競合の構造における変化の程度を連続的変数で測定する方法を提起している（Mair 2007; Casal Bértoa and Mair 2010）。ここで、その連続的変数による測定方法について見ておこう。

まず、政権交代のパターンを測定する方法として、大臣ポストのヴォラティリティを算出する方法が提案される。すなわち、大臣ポストの入れ替わりをペデルセンが提案したヴォラティリティによって数値化するのである。具体的には、政権が変わった際の与党各党の大臣ポスト（首相も含め）の純増減率を足し合わせ、それを 2 で割ることによって求める。メアらは、これを政権交代指標（index of governmental alternation: IGA）と呼ぶ。例えば、二党制において、政党 A による単独政権が政党 B による単独政権に取って代わられた場合、IGA は 100 となる。ある連立政権で政党 A が 60％、政党 B が 40％の大臣ポストを保有していたとして、政権交代により新しい連立政権が生まれ、政党 A が 30％、政党 C が 70％の大臣ポストを保有することになった場合、IGA は 70 となる。

第 2 の次元である代替政権の公式については、一定の期間における全政権のうち、革新的な公式の政権がどのくらいの比率であったのかで測定され、革新的代替指標（index of innovative alternative: IIA）と呼ば

れる。この測定方法は、個別政権についての値ではなく、対象とする期間全体についての値を算出するものである。なお、この指標における革新的公式の政権とは、これまでに同じ政党の組み合わせで政権を担ったことがないものを指す。たとえば、ある政党が以前に他党と連立により政権を形成した経験を持つとして、その政党が単独で政権を担うことになった場合、その単独政権は革新的公式としてカウントされる。

最後に、第3の次元である政権へのアクセスの測定である。この次元の指標は、政権が変わる際に政権に未参加の政党がどの程度含まれるかを測るもので、開放度指標（index of openness: IO）と呼ばれる。具体的な測定方法は、新たに政権に参加する政党の数を、政権参加政党の総数で割ることで算出する。

5　今後の展望

民主化の第3の波によって新たに形成された政党システムの研究において、西欧諸国の政党システム研究で用いられてきた概念や理論を単純に適用して分析しても本質的な理解に到達できないとの主張から、独自の概念や理論が提示されてきた。本稿では、そのなかでもとくに、メインウォリングらが主導して提起された政党システムの制度化という概念に注目し概観してきた。そして、政党システムの制度化という概念は、そこに含まれる4つの次元のうち政党間競合の制度化という次元に注目するならば、メアの政党競合の構造と接合可能であることを述べてきた。すなわち、政党システムの競合の構造という分析枠組みを用いることで、西欧諸国の政党システムと新たに形成された政党システムとを同一の基準によって比較できる可能性が開かれるのである。

今後の展望として、政党間競合の制度化だけでなく、政党の制度化についても検討する必要があると思われる。メインウォリングらは、政党システムの制度化の次元として、政党－有権者関係（第2の次元）

と組織としての政党（第4の次元）という次元を指摘しているが、この2つの次元は政党の制度化の次元と表現できる。政党の制度化と政党間競合の構造との関係については、メアが指摘するように、政党間競合の構造が閉鎖的となる、すなわち政党システムの制度化が高くなるか否かは、政党の戦略に大きく依存する。政党が、有権者とどのように結びつくのか、他党との関係（とくに政権形成をめぐる関係）をどのように考えるのか、そして組織としての政党をどのように構築するのかといった点は、政党組織論の分析対象である。

ここで指摘すべきは、メインウォリングらの想定している政党の制度化が大衆政党化を意味していることである。メインウォリングらによれば、制度化された政党システムでは、政党は社会に強固に根付いており、政党と有権者の間にはイデオロギーや綱領を媒介とした強い紐帯が存在する。また、組織としての政党が確固とした地位と価値を確立しており、野心をもった指導者が組織としての政党を意のままに牛耳るようなことはない。政党は確固とした党組織構造を整備し、影響力の及ぶ範囲も広範で、十分な政治的資源も確保可能である。これらは、まさに大衆政党が備えている特徴である。

しかし、政党の制度化を大衆政党化と想定することは、果たして妥当なのであろうか。新たに民主化した国の政治的状況や制度的環境を鑑みると、メアが論じたように、大衆政党化へのインセンティブは極めて低く、実際のところ、これらの国の政党は、党派性は弱いが選挙でのリンケージは強い、党員の重要性が低い、党運営の専門家と党指導者が優越的な立場にある、そして公的助成への依存が高いといった特徴が見出せる。これらの特徴は、大衆政党のものではなく、むしろ近年の西欧諸国の政党に見られつつある特徴である（Katz and Mair 1995, 2002; Panebianco 1988; Poguntke and Webb 2005）。新たに民主化した国の政党は、西欧諸国の政党が辿った発展経路を順次経ることなく、今日の西欧で見られる政党タイプに近い性格を有しているのである（Biezen 2005）。

このことは、政党システムの制度化を考える際に大きな意味をもつ。上で述べたように、西欧における政党システムの制度化（凍結化あるいは構造化）では、大衆政党が決定的な役割を果たした。大衆政党がほとんどの部門の有権者を動員・構造化して安定した党派的ブロックを築き上げることで、政党選択肢がほぼ固定化され、政党間競合にも一定のパターンが確立された。このように政党間競合に一定のパターンが確立した上で、政党は次第に大衆政党タイプから包括政党、選挙プロフェッショナル政党（Panebianco 1988）、あるいはカルテル政党（Katz and Mair 1995）へと変化していった。

それに対して、新たに民主化した国の政党は、その設立の当初から、国家内の一機関としての性格を持ち、現在でもその特徴を維持している（Biezen 2005: 169）。これらの政党は、有権者との間にイデオロギーや綱領を媒介にした強固な紐帯を構築せずに、むしろ選挙での有権者の動員を重視する。このような政党が政党間競合に安定したパターンをもたらすことができるのか。可能であるとすれば、どのようなメカニズムで制度化が実現するのか。

したがって、今後の政党システム論が取り組むべき課題として、政党の制度化についての理論的精緻化を進め、政党の制度化と政党システムの制度化を体系的に把握する分析枠組みを構築する作業が挙げられるであろう。

参考文献

Ascher, William and Tarrow, Sidney（1975）‘The Stability of Communist Electorates: Evidence from a Longitudinal Analysis of French and Italian Aggregate Data,’ *American Journal of Political Science*, 19: 475-494.

Bartolini, Stefano and Mair, Peter（2007）*Identity, Competition and Electoral Availability: The Stabilisation of European Electorates 1885-1985*, ECPR Press.

Bartolini, Stefano and Mair, Peter（1990）*Identity, Competition, and Electoral Availability: The Stabilisation of European Electorates 1885-*

1985, Cambridge University Press.

Biezen, Ingrid van and Mair, Peter (2006) 'Political Parties,' in Paul M. Heywood, Erik Jones, Martin Rhodes and Ulrich Sedelmeier (eds.), *Developments in European Politics*, Palgrave Macmillan: 97-116.

Biezen, Ingrid van (2005) 'On the Theory and Practice of Party Formation and Adaptation in New Democracies,' *European Journal of Political Research*, 44(1): 147-174.

Blondel, Jean (1968) 'Party Systems and Patterns of Government in Western Democracies,' *Canadian Journal of Political Science*, 1(2): 180-203.

Borre, Ole (1980) 'Electoral Instability in Four Nordic Countries,' *Comparative Political Studies*, 13(2): 141-171.

Casal Bértoa, Fernand (2014) 'Party Systems and Cleavage Structures Revisited: A Sociological Explanation of Party System Institutionalization in East Central Europe,' *Party Politics*, 20(1): 16-36.

Casal Bértoa, Fernand and Mair, Peter (2010) 'Two Decades on: How Institutionalized are Post-Communist Party Systems?' *EUI Working Paper Series*, 3.

Casal Bértoa, Fernand and Enyedi, Zsolt (2010) 'Party System Closure: Conceptualization, Operationalization and Validation,' *DISC Working Paper* 2010/11.

Castles, Francis and Mair, Peter (1984) 'Left-Right Political Scales: Some "Expert" Judgments,' *European Journal Political Research*, 12(1): 73-88.

Dahl, Robert (1966) 'Pattern of Opposition' in Robert Dahl (ed.), *Political Oppsitions in Western Europe*, Yale University Press.

Dalton, Russell (1996) 'Political Cleavages, Issues, and Electoral Change,' in Lawrence LeDuc, Richard Niemi, and Pippa Noris (eds.), *Comparing Democracies: Elections and Voting in Global Perspective*, Sage: 319-342.

Dalton, Russell, Beck, Paul Allen, and Flanagan, Scott (1984) 'Electoral Change in Advanced Industrial Democracies,' in Russell Dalton, Scott Flanagan, and Paul Allen Beck (eds.), *Electoral Change in Advanced Industrial Democracies: Realignment or Dealignment?* Princeton University Press: 3-22.

Dalton, Russell, Flanagan, Scott, and Beck, Paul Allen (1984) 'Political Forces and Partisan Change,' in Russell Dalton, Scott Flanagan, and Paul Allen Beck (eds.), *Electoral Change in Advanced Industrial Democracies: Realignment or Dealignment?* Princeton University Press: 451-476.

Drummond, Andrew (2006) 'The Impact of Party Affect on Voter Sincerity in Open and Closed Electoral Systems,' Center for the Study of Democracy, Paper 06-09.
(http://repositories.cdlib.org/csd/06-09/)

Drummond, Andrew (2002) 'Electoral Volatility and Party Decline in Western Democracies: 1970-1995,' Center for the Study of Democracy, Paper 02-02.
(http://repositories.cdlib.org/csd/02-02/)

Dunleavy, Patrick and Boucek, Françoise (2003) 'Constructing the Number of Parties,' *Party Politics*, 9(3): 291-315.

Duverger, Maurice (1954) *Les Partis Politiques*, Libraire Armond Colin. (岡野加穂留訳 (1970)『政党社会学』潮出版)

Ersson, Svante and Lane, Jan-Erik (1998) 'Electoral Instability and Party System Change in Western Europe,' in Paul Pennings and Jan-Erik Lane (eds.), *Comparing Party System Change*, Routledge, 23-39.

Evans, Jocelyn (2002) 'In Defence of Sartori: Party System Change, Voter Preference Distributions and Other Competitive Incentives,' *Party Politics*, 8(2): 155-174.

Flanagan, Scott (1971) 'The Japanese Party System in Transition,' *Comparative Politics*, 3(2): 231-234.

Fuchs, Dieter and Klingeman, Hnas-Dietrich (1989) 'The Left-Right Schema,' in Kent Jennings, Jan van Deth, and Samuel Barnes (et al.), *Continuities in Political Action: A Longitudinal Study of Political Orientations in Three Western Democracies*, Walter de Gruyter: 203-234.

Gross, Donald and Sigelman, Lee (1984) 'Comparing Party Systems: A Multi-dimensional Approach,' *Comparative Politics*, 16(4): 463-479.

Hawks, A.G. (1969) 'An Approach to the Analysis of Electoral Swing,' *Journal of the Royal Statistical Society*, 132(1): 68-69.

Hermens, Ferdinand (1941) *Democracy or Anarchy?: A Study of Proportional Representation*, University of Notre Dame Press.

Katz, Richard and Mair, Peter (2002) 'The Ascendancy of the Party in Public Office: Party Organizational Change in Twentieth-Century Democracies,' in Richard Gunther, José Ramón Montero, and Juan J. Linz (eds.), *Political Parties: Old Concepts and New Challenges*, Oxford University Press: 113-135.

Katz, Richard and Mair, Peter (1995) 'Changing Models of Party Organization and Party Democracy: The Emergence of the Cartel Party,' *Party Politics*, 1(1): 5-28.

Kirchheimer, Otto (1965) 'Der Wandel des westeuropäischen Parteiensystems,' *Politische Vierteljahreschrift*, 6: 20-41.

Kitschelt, Herbert (2003) 'Party Competition in Latin America and Postcommunist Eastern Europe: Divergence of Patterns, Similarity of Explanatory Variables?' Paper presented at the annual meeting of the American Political Science Association, Philadelphia Marriott Hotel, Philadelphia.

Kitschelt, Herbert (1997) 'European Party Systems: Continuity and Change,' in Martin Rhodes, Paul Heywood, and Vincent Wright (eds.), *Developments in West European Politics*, Macmillan: 131-150.

Kitschelt, Herbert (1995) 'Formation of Party Cleavages in Post-Communist Democracies: Theoretical, Propositions,' *Party Politics*, 1(4): 447-472.

Laakso, Markku and Taagepera, Rein (1979) '"Effective" Number of Parties: A Measure with Application to West Europe,' *Comparative Political Studies*, 12(1): 3-27.

Lane, Jan-Erik and Ersson, Svante (1994) *Politics and Society in Western Europe, 3rd Edition*, Sage.

Lijphart, Arend (1999) *Patterns of Democracy: Government Forms and Performance in Thirty-Six Countries*, Yale University Press. (粕谷祐子訳 (2005)『民主主義対民主主義：多数決型とコンセンサス型の 36 ヶ国比較研究』勁草書房)

Lipset, Seymour, and Rokkan, Stein (1967) 'Cleavage Structures, Pary Systems and Voter Alignments: An Introduction,' in Seymour Lipset and Stein Rokkan (eds.), *Party Systems and Voter Alignments: Cross-National Perspectives*, Free Press: 1-64.

Mainwaring, Scott, and Zocco, E (2007) 'Political Sequences and the Stabilization of Inter-party Competition,' *Party Politics*, 13(2): 155-178.

Mainwaring, Scott, and Trocal, Mariano (2006) 'Party System Institutionalization and Party System Theory after the Third Wave of Democratization,' in Richard Katz and William Crotty (eds.), *Handbook of Party Politics*, Sage: 204-227.

Mainwaring, Scott, and Scully, Timothy R. (1995) 'Party Systems in Latin America,' in Scott Mainwaring and Timothy R. Scully (eds.), *Building Democratic Institutions: Party Systems in Latin America*, Stanford University Press: 1-34.

Mair, Peter (2007) 'Party Systems and Alternation in Governments, 1950-2000: Innovation and Institutionalization,' in Siri Gloppen and Lisa Rakner (eds.), *Globalisation and Democratisation: Challenges for Political Parties*, Fagbokforlaget: 135-153.

Mair, Peter (2006) 'Cleavages,' in Richard Katz and William Crotty (eds.), *Handbook of Party Politics*, Sage: 371-375.

Mair, Peter (2001) 'The Freezing Hypothesis: An Evaluation,' in Lauri Karvonen and Stein Kuhnle (eds.), *Party Systems and Voter Alignments Revised*, Routledge: 27-44.

Mair, Peter (1997) *Party System Change: Approaches and Interpretations*, Oxford University Press.

Mair, Peter (1996) 'Comparing Party Systems,' in Lawrence LeDuc, Richard G. Niemi, and Pippa Noris (eds.) *Comparing Democracies: Election and Voting in Global Perspectives*, Sage.

Mair, Peter (1990) 'Introduction,' in Peter Mair (ed.), *The West European Party System*, Oxford University Press: 1-22.

Mair, Peter (1989) 'Continuity, Change and the Vulnerability of Party,' in Peter Mair and Gordon Smith (eds.), *Understanding Party System Change in Western Europe*, Frank Cass: 169-187.

Mair, Peter (1983) 'Adaptation and Control: Towards an Understanding of Party and Party System Change,' in Hans Daalder and Peter Mair (eds.), *Western European Party Systems: Continuity and Change*, Sage: 405-429.

Mayer, Lawrence (1972) 'An Analysis of Measures of Crosscutting and Fragmentation,' *Comparative Politics*, 4(4): 405-415.

Mayer, Lawrence (1980) 'A Note on the Aggregation of Party Systems,' in Peter Merkl (ed.), *Western European Party Systems: Trends and Prospects*, Free Press: 515-520.

McAllister, Ian, and White, Stephen (2005) 'Political Parties and Democratic Consolidation in Postcommunist Europe,' Paper prepared for a special issue of Party Politics on Political Parties and Political Development: A New Perspective, National Democratic Institute, Washington DC.

Milder, N. David (1974) 'Definitions and Measures of the Degree of Macro-Level Party Competition in Multiparty Systems,' *Comparative Political Studies*, 6(4): 431-456.

Miller, William (1972) 'Measures of Electoral Change Using Aggregate Data,' *Journal of the Royal Statistical Society*, 135(1): 122-142.

Molinar, Juan (1991) 'Counting the Number of Parties: An Alternative Index,' *American Political Science Review*, 85(4): 1383-1389.

Niedrmayer, Oskar (1998) 'German Unification and Party System Change,' in Paul Pennings and Jan-Erik Lane (eds.), *Comparing Party System Change*, Routledge, 137-150.

Niedermayer, Oskar (1996) 'Zur Systematischen Analyse der Entwicklung von Parteiensystemen,' in Oscar W. Gabriel und Jrgen W. Falter (Hrsg.), *Wahlen und Politische Einstellungen in Westlichen Demokraten*, Peter Lang: 19-49.

Niedermayer, Oskar (1990) 'Sozialstruktur, Politische Orientierungen und die Unterstüzung extrem rechter Parteien in Westeuropa,' *Zeitschrift für Parlamentsfragen*, 21(4): 564-582.

Panebianco, Angelo (1988) *Political Parties: Organizations and Power*, Cambridge University Press.（村上信一郎訳（2005）『政党：組織と権力』ミネルヴァ書房）

Pedersen, Mogens (1983) 'Changing Patterns of Electoral Volatility in European Party Systems; 1948-1977: Exploration in Explanation,' in Hans Daalder and Peter Mair (eds.), *Western European Party Systems: Continuity and Change*, Sage: 29-66.

Pedersen, Mogens (1979) 'The Dynamics of European Party Systems: Changing Patterns of Electoral Volatility,' *European Journal of Political Research*, 7(1): 1-26.

Pennings, Paul and Lane, Jan-Erik (1998) 'Introduction,' in Paul Pennings and Jan-Erik Lane (eds.), *Comparing Party System Change*, Routledge, 1-19.

Poguntke, Thomas, and Webb, Paul (2005) The Presidentialization of Politics in Democratic Societies: A Framework for Analysis, in Thomas Poguntke and Paul Webb (eds.), *The Presidentialization of Politics: A Comparative Study of Modern Democracies*, Oxford University Press: 1-25.（岩崎正洋監訳（2014）『民主政治はなぜ「大統領制化」するのか：現代民主主義国家の比較研究』ミネルヴァ書房：1-36）

Przeworski, Adam (1975) 'Institutionalization of Voting Patterns, or is Mobilization a Source of Decay?' *American Political Science Review*, 69 (1): 49-67.

Rae, Douglas (1968) 'A Note on the Fractionalization of some European Party Systems' *Comparative Political Studies*, 1(3): 413-418.

Rae, Douglas (1967) *The Political Consequences of Electoral Laws*, Yale University Press.

Randall, Vicky, and Svåsand, Lars (2002) 'Party Institutionalization in New Democracies,' *Party Politics*, 8(1): 5-29.

Rohrschneider, Robert, and Whitefield, Stephen (2009) 'Understanding Cleavages in Party Systems: Issue Position and Issue Salience in 13 Post-Communist Democracies,' *Comparative Political Studies*, 42(2): 280-313.

Rokkan, Stein (1968) 'The Structuring of Mass Politics in the Smaller European Democracies: A Developmental Typology,' *Comparative Studies in Society and History*, 10(2): 173-210

Rose, Richard, and Munro, Neil (2009) *Parties and Elections in New European Democracies*, ECPR Press.

Rose, Richard (2009) *Understanding Post-Communist Transformation: A Bottom up Approach*, Routledge.

Rose, Richard and Urwin, Dereck (1970) 'Persistence and Change in Western Party Systems since 1945,' *Political Studies*, 18(3): 287-319.

Sani, Giacomo, and Sartori, Giovanni (1983) 'Polarization, Fragmentation and Competition in Western Democracies,' in Hans Daalder and Peter Mair (eds.), *Western European Party Systems: Continuity and Change*, Sage: 307-340.

Sartori, Giovanni (2005) *Parties and Party Systems: A Framework for Analysis*, ECPR Press.

Sartori, Giovanni (1976) *Parties and Party Systems: A Framework for Analysis*, Cambridge University Press. (岡沢憲芙・川野秀之訳 (1992)『現代政党学：政党システム論の分析枠組み〔新装版〕』早稲田大学出版部)

Scarrow, Susan (2006) 'Party Subsidies and the Freezing Party Competition: Do Cartel Mechanisms Work?' *West European Politics*, 29(4): 619-639.

Scarrow, Susan (1994) 'The "Paradox of Enrollment": Assessing the Costs and Benefits of Party Membership' *European Journal of Political Research*, 25(1): 41-60.

Schamir, Michael (1984) 'Are Western Party Systems "Frozen"? A Comparative Dynamic Analysis,' *Comparative Political Studies*, 17(1): 35-79.

Sitter, Nick (2002) 'Cleavages, Party Strategy and Party System Change in Europe, East and West,' *Perspectives on European Politics and Society*, 3(3): 425-451

Smith, Gordon (1989) 'A System Perspective on Party System Change,' *Journal of Theoretical Politics*, 1(3): 349-363.

Stokes, Donald (1963) 'Spatial Models of Party Competition,' *American Political Science Review*, 57(2): 368-377.

Tavits, Margit (2008) 'On the Linkage between Electoral Volatility and Party System Instability in Central and Eastern Europe,' *European Journal of Political Research*, 47(5): 537-555.

Thomas, John (1979) 'The Changing Nature of Partisan Divisions in the

West: Trends in Domestic Policy Orientations in Ten Party Systems,' *European Journal of Political Research*, 7(4): 397-413

Tóka, Gábor (2006) 'Elections and Representation,' in Paul M. Heywood, Erik Jones, Martin Rhodes and Ulrich Sedelmeier (eds.), *Developments in European Politics*, Palgrave Macmillan: 117-135.

Ware, Alan (1996) *Political Parties and Party Systems*, Oxford University Press.

Webb, Paul (2002) 'Party Systems, Electoral Cleavages and Government Stability,' in Paul Heywood, Erik Jones, and Martin Rhodes (eds.), *Developments in West European Politics 2*, Palgrave: 115-134.

Wildgen, John (1971) 'The Measurement of Hyperfractionalization,' *Comparative Political Studies*, 4(2): 233-243.

Wolinetz, Steven (2006) 'Party System Institutionalization: Bringing the System Back In,' paper prepared for the Annual Meeting of the Canadian Political Science Association, Saaskatoon.

Wolinetz, Steven (1979) 'The Transformation of Western European Party Systems Revisited,' *West European Politics*, 2(1): 4-28.

荒井祐介（2017）「政党システム変化の分析枠組み」『政経研究』53巻4号：116-158。

岩崎正洋（1999）『政党システムの理論』東海大学出版会。

河田潤一（1986）「社会的クリーヴィッジと政党システムの変化」西川知一編『比較政治の分析枠組』ミネルヴァ書房：89-148。